

●●暮らしの広場●●

がん 克服へ

[35] 明敏 工藤

■大腸がん編

大腸がんは、がんから出血して貧血の原因となったり、便が通過しなくなり腸閉塞の原因となることがあるため、高齢でいろいろな合併症があっても手術が必要となります。



大腸がんと診断された時点で、すでに大腸から遠く離れた部位(腹部大動脈周囲リンパ節、肝臓、肺、腹膜など)に転移している場合は、一

進行がん(下)

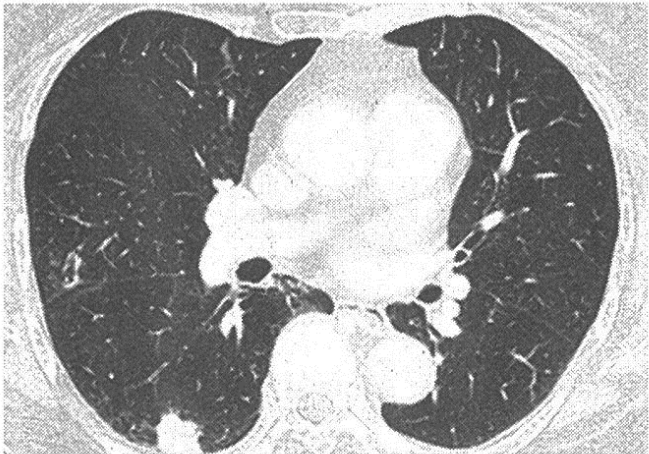
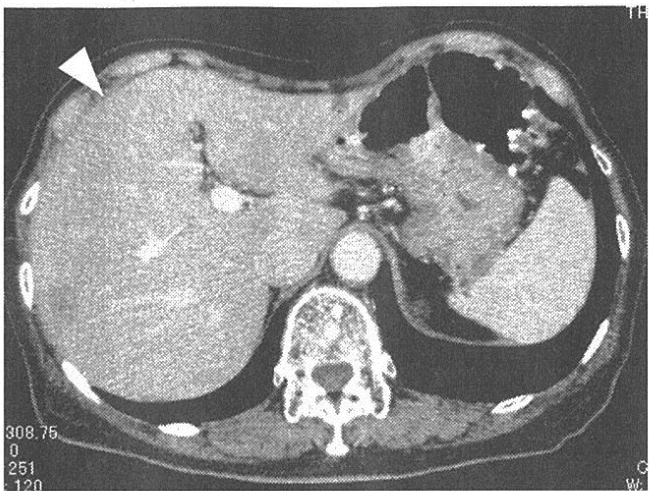
転移した肝臓、肺も切除

番進んだ病期である「ステージⅣ」に分類されます。大腸にあるがんを原発巣、転移しているがんを転移巣といいます。原発巣と転移巣が両方とも切除できる場合は、両方を切

除します。転移巣は切除できないけれども、原発巣が出血、穿孔(腸に穴があく)、腸閉塞を起こす可能性がある場合は、原発巣切除を検討します。人工肛門

をつくる場合もあります。転移巣がある場合、体調が良ければ化学療法(抗がん剤)や放射線治療を行います。原発巣と転移巣の両方とも

切除できない場合は、化学療法や放射線治療を選びます。それに耐えられないほど体が弱っている場合は、症状を和らげる治療が優先されます。肝転移や肺転移は、そのすべてを切除すれば長生きでき



多発肝転移(上、白い矢印のあるのが肝臓)と肺転移(下)。異なる時期に両方の切除手術を行った

る場合があります。

肝転移の治療には、手術(肝切除)、化学療法とラジオ波焼灼療法があります。ラジオ波焼灼療法は転移巣に針を刺して熱を発生させて、がんを凝固死滅させる方法です。手術では切除しきれない場合に、行うことが多く、入院期間も短くてすむため患者さんのQOL(生活の質)向上にもつながります。

肺転移の治療には、手術(肺切除)と化学療法があります。肺切除後には、生活できるだけの肺が残らなければなりません。

脳に転移した場合の治療には、手術と放射線治療があります。手術では術後に重大な神経障害がおこらないことが必要です。放射線治療には定位放射線治療(ガンマナイフ)と全脳照射があります。ガンマナイフは病変部にピンポイントでガンマ線を集中照射するため、副作用は最小限に抑えられます。

大腸がんが再発した場合も、上記のような考え方で治療します。

また、直腸がんが骨盤内で再発した場合、ぼうこうや子宮、膣を切除すれば、がんが取りきれない場合があります。切除できない時は、放射線治療を行います。腸閉塞を起こした場合は人工肛門をつくり

ます。(阿知須共立病院診療部長、外科部長)